

大留めジグ

杉田 / 2016年 6月 11日

2つのジグを使います。45°の微妙な角度のずれを互いのガイドが補完し合うようにしました。材を切るのは、箱の外側になる面から切り込みます。箱の外形寸法がなるべく正確に切り出せるようにするのが理由です。接着剤はエポキシを久しぶりに使いました。水分を含まないので、木が狂わないと考えました。

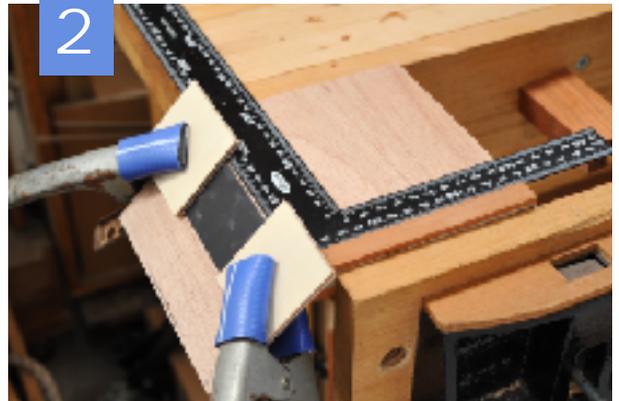


1



45°のマグネットシートを貼る傾斜面の角度は、コンビネーションスコヤの物差し部分を外した、本体を使いました。スコヤの45°面に両面テープを貼り、傾斜板には小さな穴を2つあけ、細い針金で互いを密着させてあります。この状態で、ベース板に接着しました。初めは片方のガイドだけで、箱をテスト製作しましたが、隙間が生じたため、もうひとつガイドを追加しました。スコヤ本体と板の間に使った両面テープの一部を二重にして角度を微調整しました。そのあと、切り離して2つのジグにしました。

2



上：45°面に対し、直角にフェンスを接着しているところです。瞬間接着剤を使いました。
右：このあと、テストカットしてみると、材が直角に切れないため、ショルダープレーンでフェンスの角度修正をしました。



3



テストカットを繰り返すうちに、フェンスが不要だということに気づきました。左写真のように45°面を延長する補助板をクランプし、直角に切り出した材をそこにあてがえばいい訳です。これにより精度がぐんとアップしました。使用に際しては、材の端から実際に切り込みが入る位置までのオフセット距離が生じますが、その分を見越して材を切り出せば解決できます。ジグコン参加で、考案に集中したことが新しい発見を生んでくれました。

